

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-10722

(13) 公開日 平成7年(1995)2月14日

(51) Int. Cl.⁸

G02C 9/04

識別記号 庁内整理番号

F1

技術発表箇所

審査請求 未請求 請求項の数? FD (全 3 頁)

(21) 出願番号 実開平5-49872

(22) 出願日 平成5年(1993)7月17日

(71) 出願人 583107177

堀川 高剛

福井県丹生郡朝日町佐々生53-61

(72) 考案者 堀川 高剛

福井県丹生郡朝日町佐々生53-61

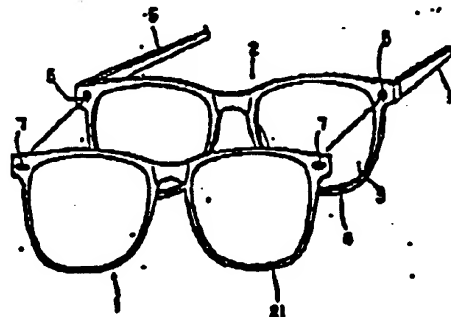
(70) 代理人 弁理士 平嶋 修治

(54) 【考案の名称】 前掛け式メガネフレーム

(57) 【要約】

【目的】 フロントフレームに前掛けフレームを着脱自在に取着する前掛け式メガネであって、前掛けフレームが軽く、又その厚さが薄くて、取着した前掛けフレームはガタ付くことなく安定する前掛け式メガネの提供。

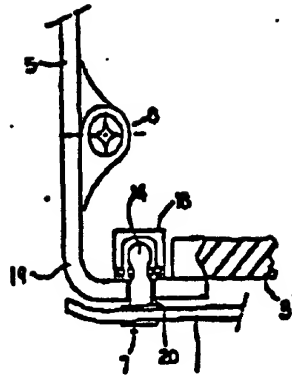
【構成】 フロントフレームの両サイドに凹部を形成した止め受具を設け、前掛けフレームの両サイドには凸部を形成した止め具を有し、該凸部を凹部に嵌着して前掛けフレームをフロントフレームに取着する。



(3)

实平7-10722

【图4】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は前掛けフレームを取着したメガネフレームに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来においても、メガネのフロントフレームに、さらに前掛けフレームを取着したメガネは多用されている。これは周知の通り、近視の人がサングラスを必要とする場合や、老眼であるにもかかわらず近視でもあるといったケースは多く、このような場合に近視用のメガネにサングラスの前掛けフレームを取着したり、老眼用のメガネに前掛けフレームには近視用レンズを入れて使用するという具合である。

【0003】

ところで、従来型式の前掛けフレームを備えたメガネフレームには幾つかの問題がある。その1つは取着構造が複雑であるためコスト高になるとともに、嵌合状態があまくなってガタ付きを生じ、前掛けフレームが安定しないといった点である。又前掛けフレームを取着するメガネフレームには、レンズを止着するリムの上端に掛け渡されるワタリが必要であり、上記前掛けフレームは該ワタリに取着されている。

【0004】

メガネフレームはその機能性の他にデザインのウェイトが大きく、前掛けフレームを取着するためのワタリがデザイン上邪魔になることがあり、この種のメガネデザインが該ワタリによって大きく制約されることになる。一方、従来の前掛けフレームを取着したメガネは、該フロントフレーム部が重くなってしまい、長時間着用していれば疲れを感じ、又フロント側を支持する鼻当てパットの押圧によって鼻の両脇が痛くなる。さらに、前掛けフレームを取着することによって、フロント部は上記重量の増大に加えて、厚さが大きくなり、デザイン的にも好ましくない。

【0005】

【本考案が解決しようとする課題】

このように、従来型式の前掛けフレームは上記のごとき問題を有している。本考案が解決しようとする課題はこれら問題点であって、着脱が容易で軽いために、長時間着用しても疲れない前掛けフレームを取着したメガネフレームを提供する。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本考案に係る前掛け式メガネフレームは上記問題点を解決するために、非常に薄くて軽い前掛けフレームを用いている。そして、該前掛けフレームはメガネのフロントフレーム外形とはほぼ同一形状とし、上記フロントフレームに密着して取着される。したがって、正面から見た前掛けフレームはメガネのフロントフレームと同一となる。またフロントフレームの両サイドには凹部を持った止め受具が固定されており、一方の前掛けフレームの裏面両サイドには凸部が突出していて、該凸部は上記止め受具の凹部に嵌着される。以下、本考案に係る実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【0007】

【実施例】

図1は本考案の前掛けフレームとメガネフレームを示す実施例である。同図の1は前掛けフレーム、2はフロントフレームを示し、この前掛けフレーム1はメガネのフロントフレーム2に止着され、しかも着脱自在となっている。上記メガネは樹脂製フレームとなっていて、フロントフレーム2はレンズ3、3を保持するためのリム4、4を左右対称に形成し、フロントフレーム2の両サイドにはツル5、5を折畳み自在に連結している。

【0008】

そして、フロントフレーム2の両サイドであって、上記ツル5、5の連結部位には止め受具6、6が埋着されていて、この止め受具6、6に上記前掛けフレーム1に設けた止め具7、7が嵌着する構造となっている。止め受具6は凹部を形成し、一方の止め具7は凸部を有していて、該凸部が凹部に嵌合して前掛けフレーム1はフロントフレーム2に取着される。

【0009】

ところで、上記前掛けフレーム1もフロントフレーム2と同じ樹脂製フレームであるが、約1mm程度の薄いレンズ用樹脂板を用いている。勿論、このレンズ用樹脂板に限定はしないが、該レンズ用樹脂板を使用することにより、前掛けフレーム1には改めてレンズを嵌込む必要がなく、該レンズとフレームを一体的に形成することが出来る。そこで、上記レンズ用樹脂板を、例えばエンドミル等でその外形がフロントフレーム2とほぼ同一になるように切削加工し、又レンズが嵌まっているように見せるための玉形状の溝21を加工する。さらに、平坦な樹脂板を熱プレス加工によって、フロントフレーム2と同一形状に湾曲させ、両サイドには上記止め具7、7を止着する。

【0010】

図2はフロントフレーム2に前掛けフレーム1を取着した場合の平面図であり、同図は実寸大であるが、樹脂製メガネのフロントフレーム2に比べて前掛けフレーム1の厚さは非常に薄く、したがって重量も小さいため、前掛けフレーム1を取着している感覚はない。この前掛けフレーム1は前記の通り、フロントフレーム2に設けた止め受具6に前掛けフレーム1の止め具7を嵌着することで、着脱自在に取着可能な構造としているが、その1具体例を示しているのが図3である。

【0011】

図3 aは止め受具6の正面図を、bは止め受具6に止め具7が嵌着した状態での断面図を示しているが、上記止め受具6はフロントフレーム2に埋着されている。そして、この止め受具6はツル5を連結している蝶番8の片方の蝶片9 aと一体化され、フロントフレーム2の高側へ突出した蝶片9 aとツル5側に埋着した他の蝶片9 bとがビスを介して屈曲自在に連結している。止め受具6は外方向へツバ10 a、10 bを突出し、フロントフレーム2から脱しないように、又ガタ付かないように埋着され、中央には凹部11を形成し、そして該凹部11の入口側にはバネ12を止着している。

【0012】

このバネは凹部11の入口側に形成した溝に嵌入して止着され、互いに平行し

た扶持部13a、13bを有している。該扶持部13a、13b間距離はバネの変形によって拡大することが出来る。一方、前掛けフレーム1には止め具7が止着されており、この止め具7は裏側へ突出した凸部14を有している。そして、止め具7は表面に位置するプレート15と裏面に位置する裏板16から成り、プレート15の両側から延びているピン17、17を前掛けフレーム1に形成した孔へ挿通し、裏板16の孔に嵌合した状態でカシメている。上記凸部14は裏板16に形成している。

【0013】

図3bはこの凸部14が止め受具6の凹部11に嵌入してバネ12の両扶持部13a、13bによって止着された場合を示しているが、凸部14の先端部は大径となっているため、一旦扶持部13a、13bを押抜けて凹部11へ嵌入了凸部14は独りでに取脱することなく、前掛けフレーム1を安定して取着する。ところで、上記実施例で説明したメガネフレームはフロントフレーム2及び前掛けフレーム1ともに樹脂製であるが、本考案は樹脂製のフレームに限定はしない。

【0014】

図4は金属製メガネフレームの場合の実施例である。基本的な構造は上記実施例と同じであるが、止め受具18はヨロイ19の裏側にロウ付けされていて、該ヨロイ19には前掛けフレーム1の止め具7の凸部14が挿入するための孔20を形成している。一方、前掛けフレーム1を金属製とする場合には、フロントフレーム2と同じような形状とし、両サイドのヨロイ部には止め具7をロウ付けして設ければよい。

【0015】

さらに、上記止め受具6及び止め具7の形態も任意であって、本考案はボタン型式にて前掛けフレーム1を着脱可能に取着するものであればよい。したがって、上記バネ12を必ずしも必要とはしない。以上述べたように、本考案の前掛け式メガネフレームは前掛けフレームに止め具を設け、メガネのフロントフレームには止め受具を有して、該止め受具に止め具を嵌着したものであり、次のような効果を得ることが出来る。

【0016】

【考案の効果】

本考案の前掛け式メガネは前掛けフレームをボタン型式にてメガネのフロントフレームに止着するため、その着脱操作は簡単であり、又フロントフレームの両サイドに止め受具を、前掛けフレームの両サイドに止め具を設けているために取着した前掛けフレームはガタ付くことなく安定する。そして、前掛けフレームとしてレンズ用樹脂板を使用するならばその厚さは極めて薄くて又軽量化され、該前掛けフレームを取着したメガネとは思えないものとなり、疲れや鼻当てパット当接部の痛みが軽減される。さらに、前掛けフレームはその両サイドをボタン型式で止着されて安定するために、フロントフレームに接触してキズが付くことも無くなる。